

# なぜ、英文法を適切化しなければならないか？：習えない表現がたくさんあるから！

英語の現況  
学習

今の英文法は、英語表現全体のごく一部しか説明できていません。そのため、**表中の△や×の部分**の表現は「文法の埒外」に置かれており「**教えられていません**」。説明できないものは「イディオム(慣用表現)」と呼び、丸覚えするのですが直ぐ忘れてしまい、なかなか使えるようにならないのが現状ではないでしょうか？

英語の本質

SVOPの語順に、いろいろな言葉を当てはめて意味を作っている。品詞が言葉の働きを決めているわけではない。

「英語の言葉の組み合わせ」：基本パターン ⇒ VSOP概論編では「全ての組み合わせ」がワンパターンで理解できる！

他動詞の使い方  
ネクサスの使い方  
自動詞の使い方

S Verb 目的語(O) [be]形容詞	<del>S Verb 目的語(O) [be]副詞</del>	S Verb 目的語(O) [be]前置詞句	S Verb 目的語(O) [have]具体名詞	<del>S Verb 目的語(O) [have]抽象名詞</del>	<del>S Verb 目的語(O) [have]a do</del>	S Verb 目的語(O) [be]doing	S Verb 目的語(O) [be]to do	S Verb 目的語(O) [do]do	S Verb 目的語(O) [be]done/-ed
名詞[be] 形容詞	<del>名詞[be] 副詞</del>	名詞[be] 前置詞句	名詞[be] 具体名詞	<del>名詞[be] 抽象名詞</del>	<del>名詞[be] a do</del>	名詞[be] doing	名詞[be] to do	名詞[be] done/-ed	
S Verb 形容詞	S Verb 副詞	<del>S Verb 前置詞句</del>	S Verb 具体名詞	<del>S Verb 抽象名詞</del>	<del>S Verb a do</del>	S is □□ doing	<del>S is □□ to do</del>	S is □□ done/-ed	
S is 形容詞	<del>S is 副詞</del>	<del>S is 前置詞句</del>	S has 具体名詞 S is 具体名詞	<del>S has 抽象名詞 S is 抽象名詞</del>	<del>S has a do S is a do</del>	S is doing	S has to do <del>S is to do</del>	S has done/-ed S is done/-ed	

他動詞の使い方  
ネクサスの使い方  
自動詞の使い方

※この図は、日本人の置かれている文法的制約を図式化したものです。詳細はお問い合わせください。

活用しない、いろいろな言葉

動詞の活用形

Copyright (C) 2011 VSOP E.G.Lab. All Rights Reserved.

● 現行の文法事項として習っている組み合わせ項目。ただし、適切に理解されているとは限らない。	△ 文法事項として習っているが、筋が通らないか、実体とずれていて適切に理解されていない項目。	× 文法事項として説明できないので習っていないか、熟語(イディオム)・慣用表現とされている項目
--	--	---